トピックス

「日本植物病名目録」の発行によせて

日本植物病理学会病名委員会　前委員長　植（うえ）　松（まつ）　勉（つとむ）

はじめに

この度，日本植物病理学会編集の「日本植物病名目録」が完成し，社団法人日本植物防疫協会から発行されました。本書は，1930年代から病名調査委員会の名の下に調査が続けられ，日本の植物に発生する病気の病名等に関する考証上のよりどころとして，逐次に整理・発行，増補改訂を重ねてきた「日本有用植物病名目録」の第1巻～5巻と同追録(1)～(22)を収録し，さらに添削を加え編集したたものです。したがって，本書は70年間にわたって蓄積してきた貴重な財産，まさに世界的に類を見ない「病名のインベントリー(inventory)」を継承するものです。書名が変わっても，日本における植物の病名等に関する唯一の典拠となるものにかわりはありません。

病名目録は「わが国の植物にどのような病害が発生し，それがいつ誰によって報告されているか，その病原体は何か」などの情報が利用しやすく整理されていて，座右の辞書としての性格を備えていることが求めれれます。しかし，追録に収録された植物や新病名等は膨大になり，さらに，きのこや野草・芝草などの宿主を新たに取り込む必要性，次々と提案される新分類体系と病原体名，さらに線虫病，植物学名などの見直しも加わり，増補改訂の機運が高まっていました。これには，他の領域の専門家の協力も必要でした。編集に携わった当学会関係者はもちろんのこと，菌学会，日本きのこ学会，野菜茶業試験場，森林総合研究所のそれぞれ関係者の方々には本書に対する深い理解を得て献身的な協力をいただきました。先ず特記し，以下，本書の編集経緯と内容の概要について記します。

I　日本植物病名目録編集の経緯について

1937年に，病名を定めた一つの指針として「有用植物病名調査」が印刷され，その後，一時中断したものの調査が続けられ，57年に食用作物・特用作物編，65年に野菜・観賞植物・牧草編，及び果樹・樹木編のそれぞれ初版が出版され，現在の典拠となりました。その後も，新病害を随時取り込んで増補改訂を重ねるとともに収録植物も再構成し，83年に針葉樹・竹笹編の第2版，84年に果樹編の第2版及び広葉樹編の第2版，90年に食用作物・特用作物，牧草・芝草編の第3版，そして93年に野菜及び草花編の第3版が出版されています。また，85年以降は病名目録に未収録の病害（主に新病害）については所定の審査を経て，「日本有用植物病名目録追録」として整理され，収録されて来ました。この追録も集積したこと，出版年次の古い巻の改訂出版を迫られたこと等を踏まえて，97年10月に「日本有用植物病名目録改訂版編集委員会」が設置され，以下のように編集方針がまとめられました。

II　目録編集の基本方針と内容について

従来，病名目録は上述したように作物の区分ごとにとりまとめ発行されてきましたが，情報化技術の発達など変容するニーズの形態や新たなユーザーの動向を踏まえて，1～5巻を合冊にし，新たな宿主植物（野草，きのこ，稀少樹木など）を加えて整理し，「日本植物病名目録」として編集することになりました。その際，電子情報化時代に印刷物がはたして必要か，また従来の植物区分を見直し，宿主を植物分類に準拠して整理にすべきではないか，等々の意見もありましたが，将来の課題として後輩に残し，今回は見送ることにしました。そして，新目録に取り込む病名等は旧目録の収録病名，同追録(1)～(22)の採録病名，及び1998年10月末日までに新病名等の届出申請があり，病名委員会の審査を経たものとしました。そして：①植物（宿主）を食用作物，特用作物，牧草および芝草，野草，野菜，きのこ，草花，果樹，針葉樹，竹笹，及び広葉樹に区分して掲載する。その中の宿主の配列順は，科別に大別し，科・属学名によるアルファベット順とし，属以下も学名によるアルファベット順とする。なお，科の英名はそれぞれの植物区分で一般的に使われているものを採用し，異名は括弧内で示す。②本文あるいは付録への採録については，例外的措置の明確な規定は困難であることなどを踏まえて，原則として，すべて本文に収録し，付録には海外発生病害など凡例に示した範囲に限り収録し，備考欄にその旨を付記する。③引用文献は，可能な限り再点検し，著者，発表誌・頁，発表年，内容について確認する。④芝病名は既定の申し合わせ事項に沿って，審査を終了した病名

を収録する。野草及び希少植物病名は追録採録病名とともにそれぞれ該当する区分の編集委員会でとりまとめ，病名委員会の審査を経て収録する。線虫病のとりまとめは，病原体名検討小委員会線虫部会に一任する。きのこ病名は，宿主等アドバイザー委員会きのこ部会の答申に従って収録する。⑤目次及び索引（宿主学名・和名，病原体学名・和名）は，区分ごとに分けず全部まとめて掲げる。⑥日本有用植物病名目録では，改訂増補のつど，初版からの序文をすべて掲載してきたが，本目録では，経緯を記すことと巻末に代々の編集関係者を掲載してこれに代える。そして，編集は日本植物病理学会，発行は日本植物防疫協会の責任のもとに行う：等々の基本方針が決められました。

III 病原体学名，宿主学名，きのこ病名及び線虫病について

病原体については分類学の発展とともに次々と新たな分類体系や病原体名が提案されていること，また，植物について，その学名が出典によりはしばしば異なることなどから，本書ではどれを用いるべきか，整理が必要でした。そのため「病原体名検討小委員会」及び「宿主学名等アドバイザー小委員会」を設置し，学会として使用するのに望ましい病原体の学名及び植物の学名が検討されました。きのこの病名については，関係学会との整合性を図るため菌学会や日本きのこ学会などの協力を得ました。また，線虫病については，従来，「○○線虫病」として収録し，線虫の学名を添えてきましたが，国際的な流れに沿って整理することが決まり，取りまとめは病原体名検討小委員会線虫部会に一任されました。本書にはこれら小委員会が取りまとめた内容が一括して収録されました。

おわりに

本書は上述したように先陣の蓄積した財産に，新たな情報とニーズを積極的に盛り込み体系的に整理したものです。しかし，短期間での編集を余儀なくされたため，不統一のところもあったり，不注意からくる単純な誤りも残っているのではないかと危惧しています。なお，発行は当初の計画から6か月遅れましたが，これは，編集の最終段階に入ってからの文献の慎重な吟味，最新情報を盛り込んでの病原学名等の変更処理，膨大な索引項目の整理と索引作りなどに多大の時間を要したことがその最大の理由です。とにかく，こうして上梓できたのも，本書の巻末に掲げた5名の編集委員長のリーダシップとそれに答えて下さった編集委員，病名委員および小委員会の責任者と委員，編集事務局の皆さん，ならびに発行を引き受けてくださった日本植物防疫協会担当者の辛抱強い献身的な尽力に負うところが大きいことを記して，筆を置きます。

発行図書

日本植物病名目録(初版)

日本植物病理学会　編　B5判　本文734頁＋索引他124頁

定価 11,550 円税込み（本体 11,000 円）　送料サービス

1960年から発行された日本有用植物病名目録：第1巻(食用作物・特用作物・牧草・芝草)，第2巻(野菜および草花)，第3巻(果樹)，第4巻(針葉樹，竹笹)，第5巻の広葉樹(林木・観賞樹木)までの全5巻に新規に「きのこ」を追加して一冊に纏めた見やすい大植物病名目録です。掲載内容は，食用作物，特用作物，牧草及び芝草，野草，野菜，きのこ，草花，果樹，針葉樹，竹笹，広葉樹，索引(宿主和名，宿主学名，病原学名，病原和名，ウイルス・ウイロイドの種名・略号・和名・科名および属名一覧表。

お申し込みは直接当協会へ，前金（現金書留・郵便為替）で申し込むか，お近くの書店でお取り寄せ下さい。
社団法人　日本植物防疫協会　出版情報グループ　〒170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11
郵郵便振替口座 00110-7-177867　TEL(03)3944-1561(代)FAX(03)3944-2103　メール：order@jppa.or.jp